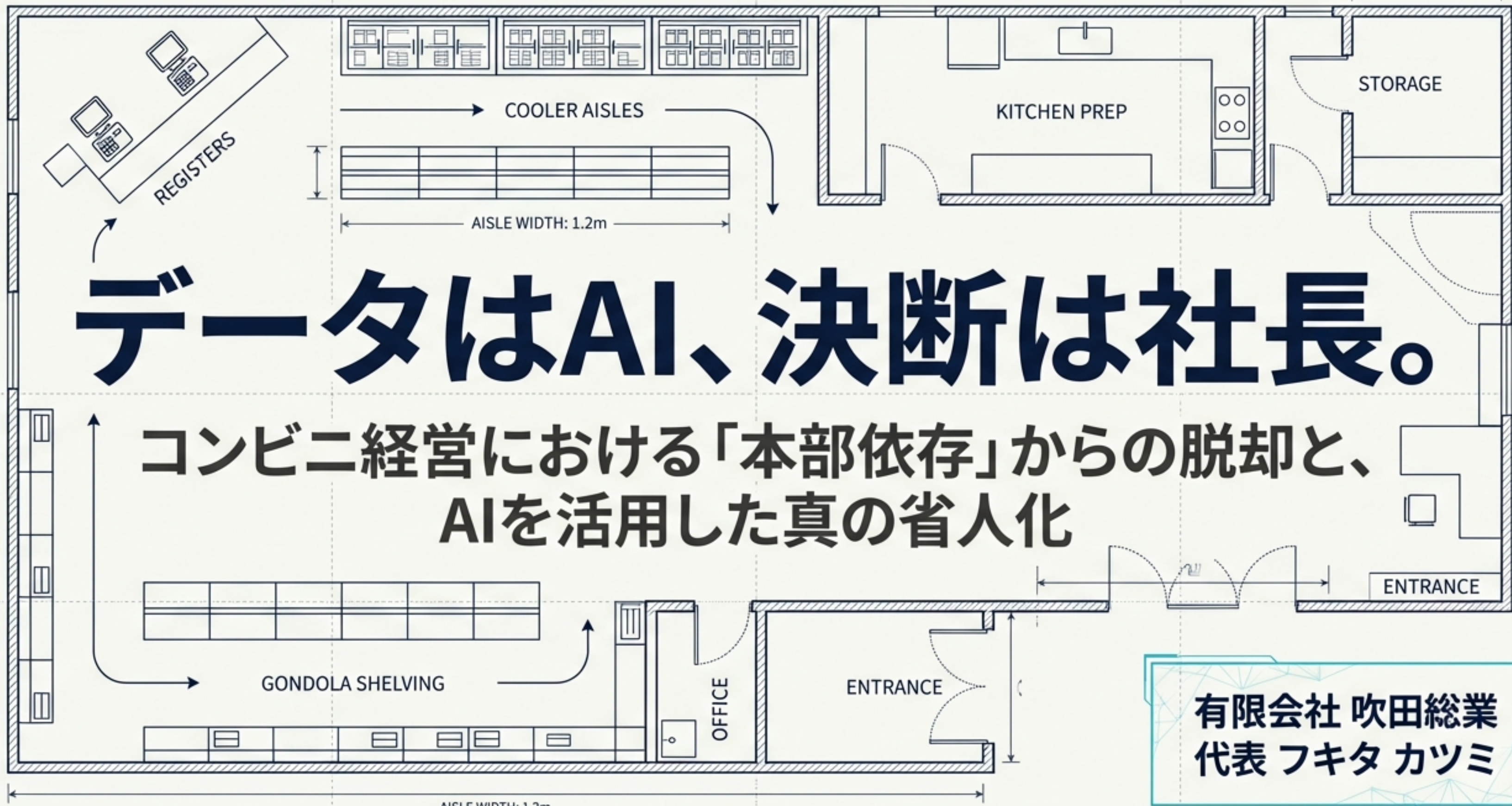


TOTAL AREA 1331m<sup>2</sup>



# データはAI、決断は社長。

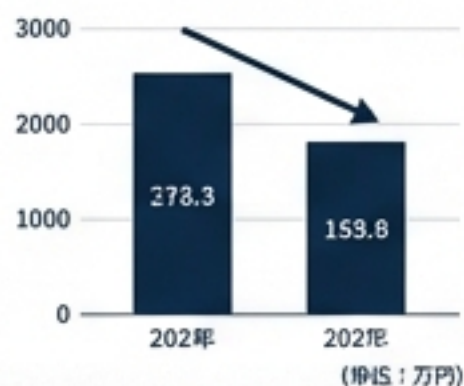
コンビニ経営における「本部依存」からの脱却と、  
AIを活用した真の省人化

有限会社 吹田総業  
代表 フキタ カツミ

# 利益減少に対する本部の回答は、現場の現実と乖離している



## 加盟店利益が2年連続で減少 (流通ニュースより)



加盟店利益が2年連続で減少（流通ニュースより、出来立てカウンター商材に強化）より、加盟店利益で年割断利益となる実績があるほうし、人件費をカウンタを推進、本部の利益によって増減に必要とされました。

① 出来立てカウンター商材を強化  
(業務量の増加)

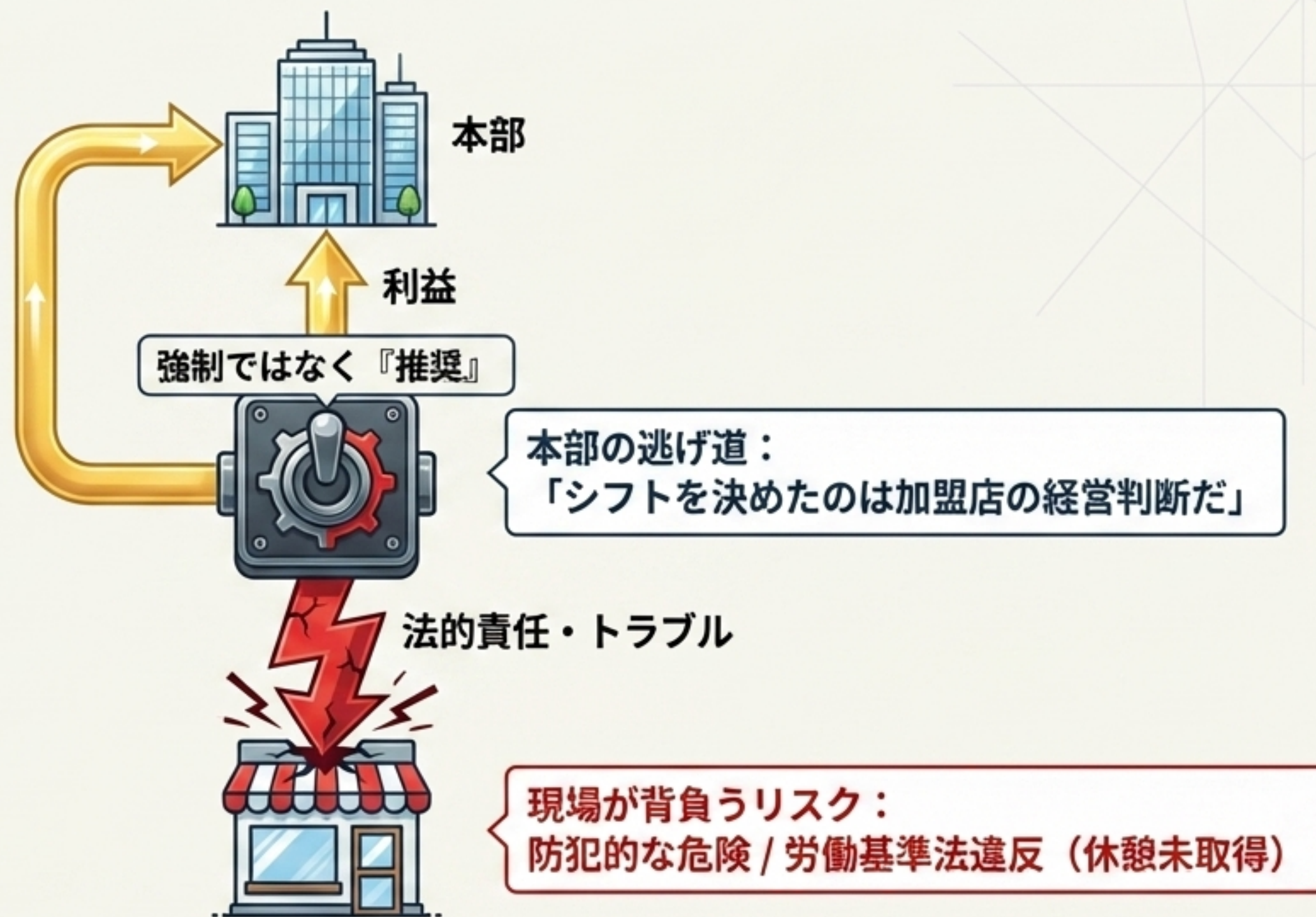
② ワンオペモデルを推進し、  
人件費を抑制  
(労働力の削減)

# 「アクセルとブレーキの同時踏み」が引き起こす現場のクラッシュ



現場を知る人間なら、これがどれほどトンチンカンな施策かすぐに分かる。  
手間を増やしながらか、人を削るという矛盾。

# 本部の「推奨」という言葉に隠された片務的なずるさ



利益は吸い上げ、加盟店を「責任の防波堤」にする構造。

# 現場が苛立つ理由：「定額減税」と同じ自己満足のアピール構造

	岸田政権	コンビニ本部
施策	定額減税	新しいレジの導入
現場の受け止め	「してくれたことはありがたいが、本当に欲しいのはそこじゃない」	
真の目的	自分たちの評価だけを最大化してアピールする	

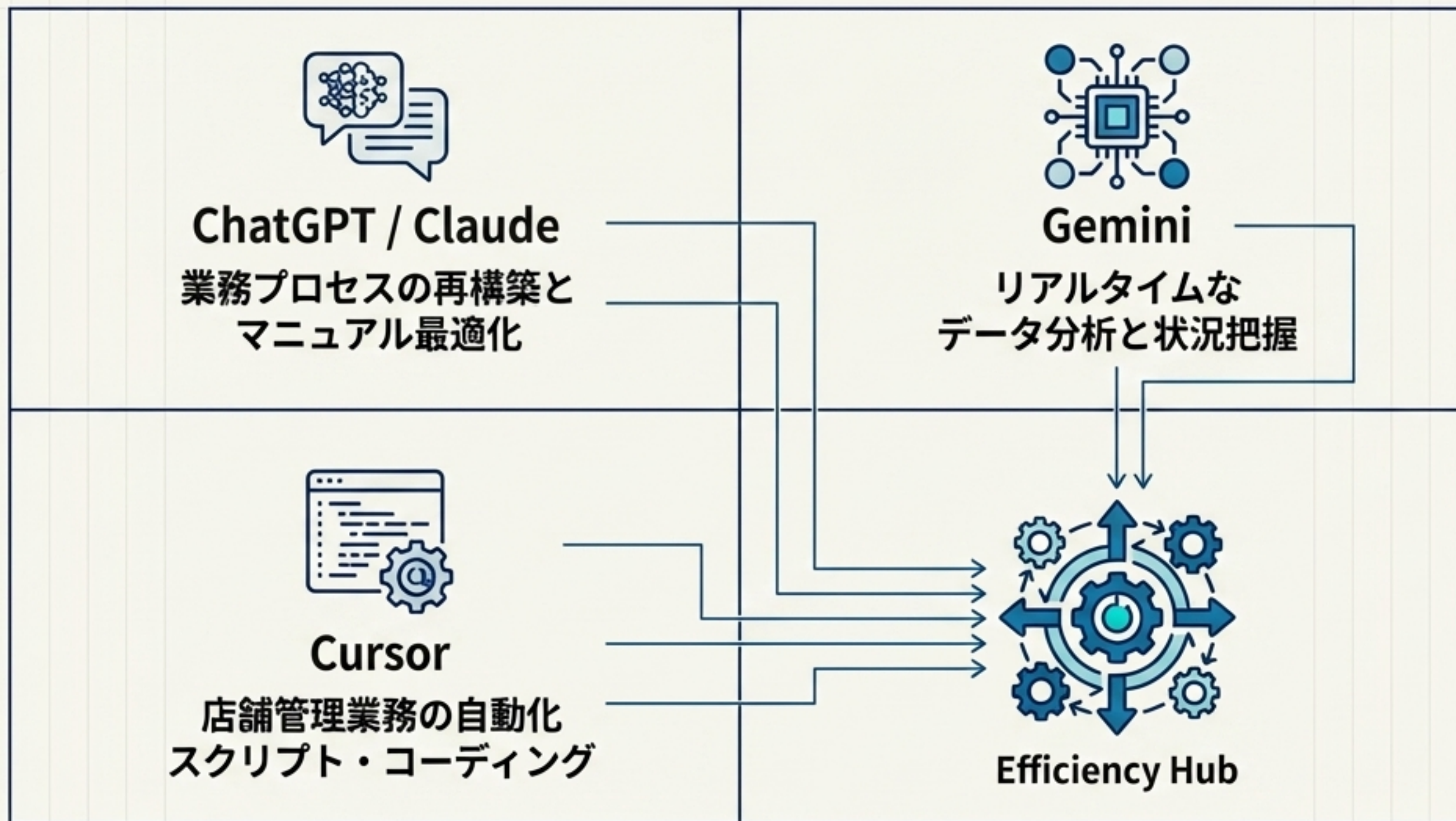
# 本部の不十分なインフラへの「依存」からの脱却



- 吹田総業の店舗では、実際にワンオペの時間を増やしている。
- しかしそれは、本部のインフラに頼ったからではない。

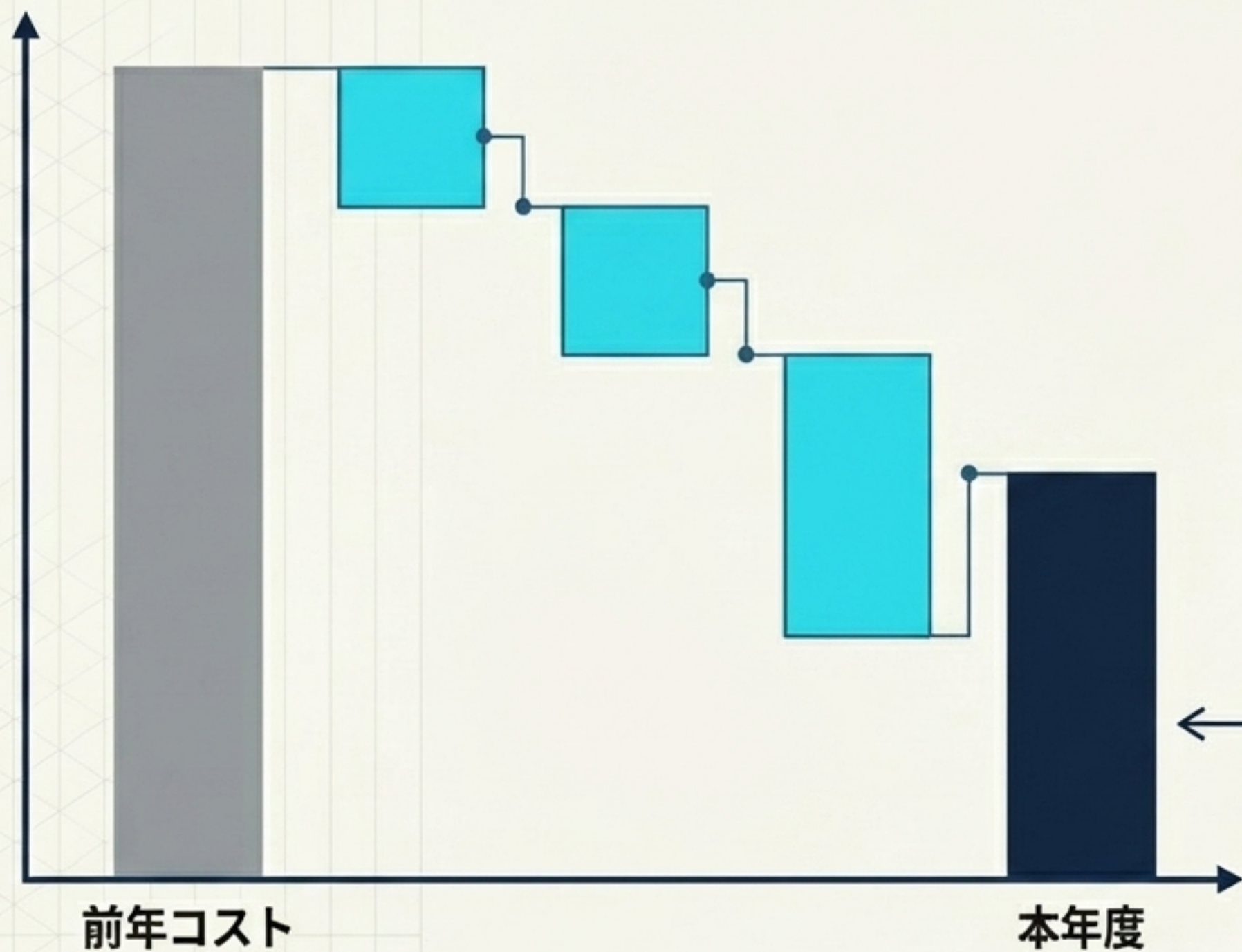
**現場の安全は「自己責任」で構築し、  
自らの手でインフラを再定義する。**

# 現場の過負荷を排除する「AIテックスタック」の実装



人を削るのではなく、1人でも過度な負荷がかからない「作業の適正化」を実現する。

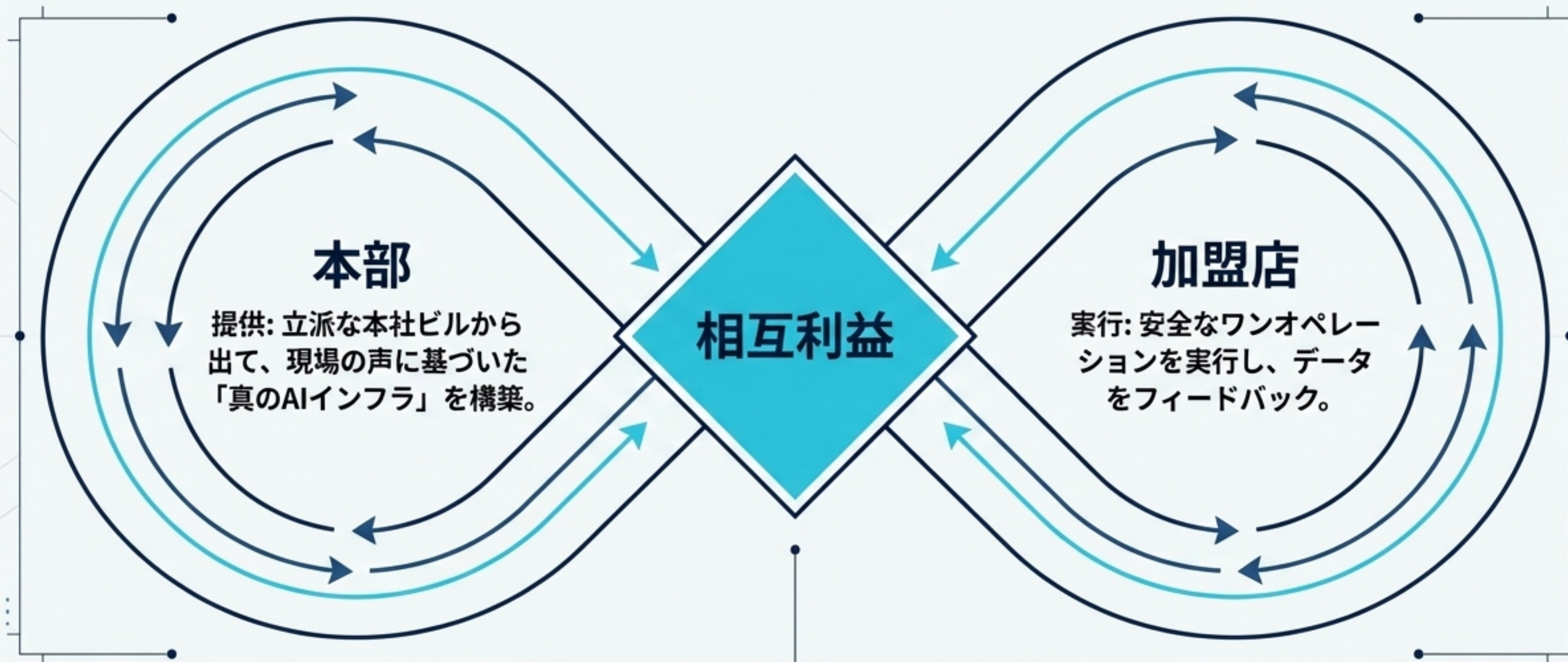
# AIによる作業適正化がもたらした圧倒的なコスト削減効果



3店舗トータル  
**-1,500万円**

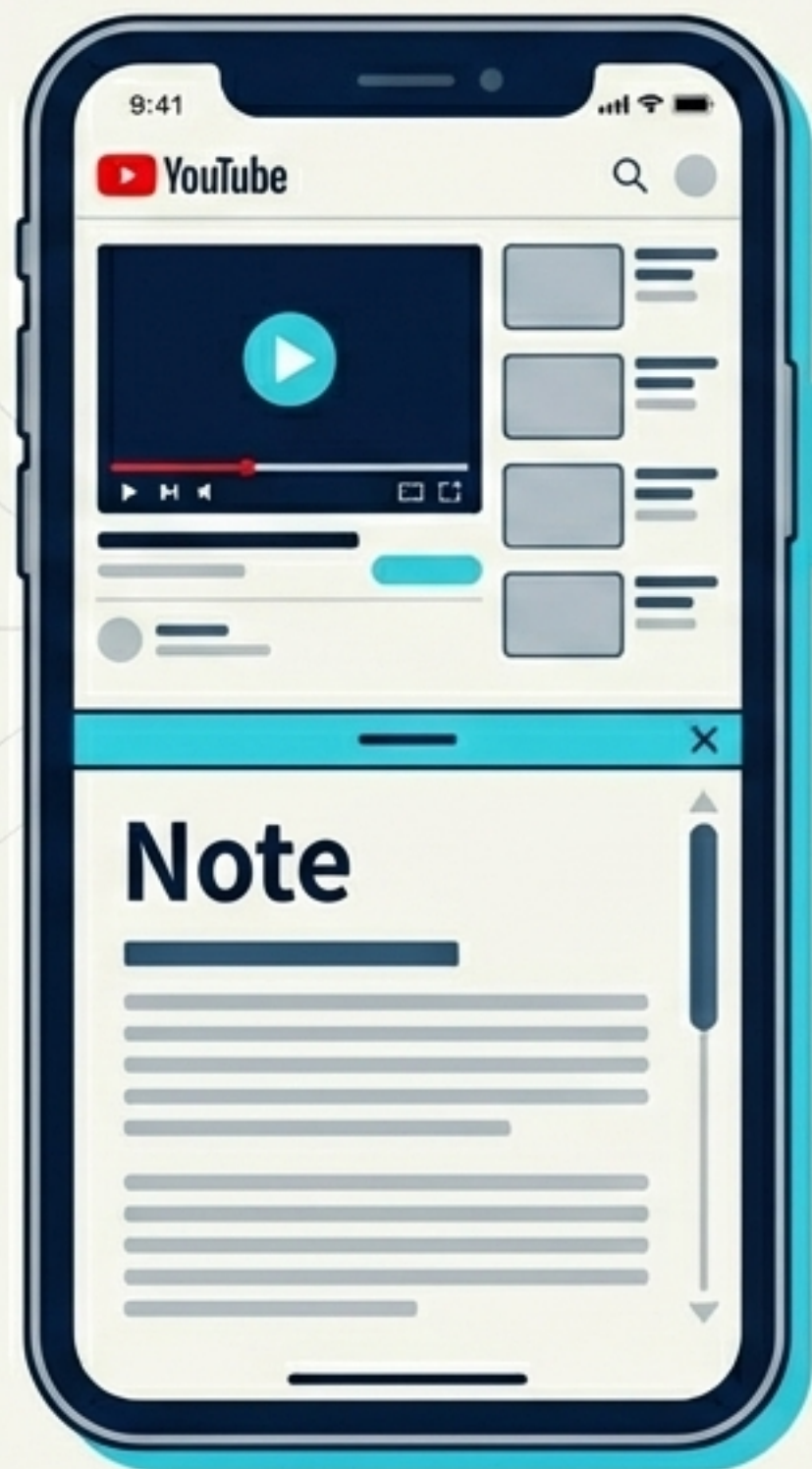
本部のシステムに頼らず、現場主導のAI実装だけで生み出した「真の利益」。

# 本部と加盟店が真の「Win-Win」 となるための新パラダイム



ずる賢い逃げ道を考えるのではなく、本気でAIを現場に落とし込む。  
それが両者の利益を最大化する唯一の道である。

# 現場のリアルな経営ノウハウをさらに深く知るために



**Official Website:**  
有限会社 吹田総業の  
公式サイトをチェック



**Note Article:**  
「社長の着想日誌」で  
ディープなノウハウを読む



**YouTube:**  
チャンネル登録と高評価  
(現場のリアルな情報を包み  
隠さずお届けします)



※概要欄のリンクからも即座にアクセス可能です。

**「データはAI、決断は社長。」**

有限会社 吹田総業  
代表 フキタ カツミ